

2021年度／令和3年度 事業報告

2021年／令和3年4月1日～2021年／令和4年3月31日

2022年度／令和4年度 事業計画

2022年／令和4年4月1日～2023年／令和5年3月31日

2022年／令和4年4月1日

学校法人田名橋学園

和田幼稚園

第1節 幼稚園行事(事業)の主要実施報告

設置者	学校法人 田名橋学園
学校名	認定こども園 和田幼稚園
所在地	福岡県糟屋郡篠栗町和田3丁目6番1号
法人代表者	理事長 池田 敏明
学校長氏名	園長 田名橋 真敏
役員等	理事 6名、評議員 13名、監事 2名 理事会・評議員会
定員・実員学籍	定員 155名(1号 105名 2号 20名 3号 30名) 実員 1号 86名 (うち満3歳児 8名) 2号 40名 3号 18名 (うち 1歳児 7名 2歳児 11名) 計 144名
職員構成	令和3年度 園長 1名、事務長 1名、 副園長兼主任保育士 1名、主幹教諭 1名 副主任保育士 3名 専門リーダー 4名 職務別リーダー 3名 保育補助 10名、(産休 4名)、シルバー人材 1名 ※調理師 4名・調理師補助 1名、栄養士 1名、 計 35名
建学の精神	「あかるく たくましく かんがえる人間性豊かな子どもをめざす」 子どもたちの根っこを育て、豊かな人格形成(気づき、考えて、行動する)、「生きる力」を養っていく。

2021年度					
市町村	就学小学校	人数	市町村	就学小学校	人数
篠栗町	北勢門小学校	19名	福岡市	照葉北小学校	1名
	勢門小学校	11名	鹿児島市	広木小学校	1名
	篠栗小学校	6名			
久山町	久原小学校	1名			
粕屋町	大川小学校	1名			40名

◆研修報告

開催時期	研修・事業名	研修目的	研修内容
4月2日	園内研修①	安全対策会議	
4月5日	園内研修②	保健衛生・安全対策会議	
4月8日	NPO 国際臨床研究所 勝山結夢氏	保育環境	保育環境、これからの保育(担任保育者)
4月18日	NPO 国際臨床研究所 勝山結夢氏	保育環境(オンライン研修)	保育環境、これからの保育(希望者)
4月24日	園内研修ハラスメント委員会	ハラスメント会議	ハラスメントについての共通理解
4月25日	学研研修会	乳児保育	乳児保育(園長)
5月15日	NPO 国際臨床研究所 勝山結夢氏	保育環境(オンライン研修)	保育環境、これからの保育(希望者)
5月21・28日	新人スタートアップ研修	新人スタートアップ	社会人の心得、保育について
5月22日	園内研修③ 特別支援委員会	特別支援	特別支援計画
5月24・31日	知育玩具協会 知育玩具2級	知育玩具2級	知育玩具について
6月4日	乳児保育研修	乳児保育	乳児保育(1・2歳担任保育者)
6月9日	給食研修	食育 子どもの食	食育 子どもの食(調理師、養護、主任ほか)
6月11日	全国認定こども園研修	全国認定こども園研修	経営について
	日本保育協会研修	自己評価	教育要領に基づいた自己評価
		マネジメント	マネジメントについて(副主任)
6月25日	日本保育協会研修	保育実習指導者セミナー	保育実習について(実習担当)
	キャリアアップ研修	特別支援	特別支援について
6月26日	園内研修④	園の課題に応じた研修	安全管理(水あそび等)
7月2日	日本保育協会研修	保育実習指導者セミナー	保育実習について(実習担当)
7月31日	園内研修⑤	園の課題に応じた研修	1学期の課題や改善点
9月11日	園内研修⑥	運動会について	運動会について
10月23日	園内研修⑦	運動会の振り回り	運動会について
12月4日	園内研修⑧	発表会について	発表会について
1月末～	ヒアリング(職員)		1年間の振り返り クラス発表
1月31日～	NPO 国際臨床研究所 勝山結夢氏	保育環境(オンライン研修)4回	保育環境、これからの保育(希望者)
2月26日	園内研修⑨	自己評価	1年間の振り返り
3月26日	辞令交付・職員会議	辞令交付	新入職者紹介 令和3年度委員会報告 パワハラ
3月16・17日	新入職者研修	新入職者研修	保育実践
3月28・29日	新入職者研修	新入職者研修	これからの保育について

第3節 学校評価

2021年度 学校法人田名橋学園 和田幼稚園 学校自己評価表

和田幼稚園の運営方針

1. 安全・安定・安心な園づくり
子ども達が楽しく安心して園の生活ができるように子どもたちの情緒の安定を図り、日常の安全管理や避難訓練など防犯体制の充実を図り、安全で安心な園づくりを推進する。
2. 人間形成の基礎づくり
挨拶や礼作法など基本的な生活習慣が身につくように援助し、自発的、主体的に行動できるように助長する(人格形成の基礎づくり)を推進する。
3. 幼児教育の更なる充実(豊かな環境の中で、多様な経験をし、成長を促す)
遊びや活動、生活の中で、人・もの・コトに子どもたちが自ら関わり、その中で発見したり、気付いたり、工夫したり思考錯誤し、友だちと協力したりしながら、子どもたちの園生活が充実していくように関わっていく。

和田幼稚園の教育目標

1. 「あかるく、たくましく、考える創造性豊かな子」を育むことを目標に、一人一人の関わりを大切にす
2. 自然を営む環境の中で、多様な経験や体験を通して、心身とも成長、発達を促す
3. 正しい生活習慣を身につけ、人間形成の基礎を培うことを目標とする

本年度の重点目標	● 保育の質向上(教育課程の見直し、教育保育要領の理解、子ども理解、育ちを見る目) 子どもたちが自分で考え、仲間と考え、工夫し、学んでいく環境づくり(人的環境、保育環境)(時間、空間、人間)「子ども理解」「保育実践」「子どもとともに創っていく」
経営の重点	● 組織運営の土台づくり・つながりづくり 主任、副主任を置くことで、リーダーシップを発揮し、職員間の様々な課題に取り組んでいくことで人材育成を高める「子どもについて話せる仲間づくり」職員が働きがいのある職場づくり(カリキュラムマネジメントによるPDCA)再就職支援制度(人材確保、保護者、ボランティア活用)
教育の重点	● 保育の質の向上(指導力、子ども理解の向上、マネージメント力、リーダーシップ力) 保育の見える化(多様な見方・考え方)(子ども・保護者・職員間で共有)日頃の保育(職員間振り返り) 園内研修(職員間の振り返り)(PDCA サイクル) 園外研修 公開保育(コロナウィルスが終息した場合)

評価項目

項目	内容(取組み)	評価	理由
1. 将来ビジョン	本園の目指す方向を確認しながら(全体的な計画を確認する)保育を進めていく。主任、副主任、各学年のリーダーを中心に、指導計画や記録の作成に際して、常に本園の保育の原点(あかるく、たくましく、かんがえる)を確認し合う。	B	新型コロナウィルスの影響により、これからの社会に必要な「生きる力・生き抜く力」について考える時間が増えた。「あかるく、たくましく、かんがえる」の教育理念を基に、目指す子ども像について、再検討を行った。「人との関わりを大切にする子」「自分を信じ、最後までやり抜く子」「気づき、考えて、行動する子」「自分で課題を見つけ、探求する子」「自然と関わり、命を大切にする子」「受け身ではなく、主体的に今からの時代を創造する子どもたちへ。」「子ども観や保育について共有する。令和4年度においても、「子どもについて、保育について」対話をしながら、学び続ける組織を目指していく。
	(具体的な目標や取組) ● 全職員での研修を行い、園の理念の確認を実施する ● これからの社会に必要な育ちを確認(保育者・保護者) ● 教育保育要領の理解を深めていく ● 自己評価を全体的な計画に活用していく ● これからの保育・教育について保護者と共有する		

7. 特別支援教育	<p>特別支援教育への理解と実践 (具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援コーディネーターを指名(主任) ● 加配の先生を配置する ● 個別の指導計画を作成 ● 子どもの困り感、支援の仕方を職員間で共有(園内研修) ● 篠栗町巡回相談(2回) 	<p>3月に個々の子どもたちの引継ぎを行い、4月に特別支援委員会を立ち上げ、各担当保育者が特別支援計画をたてた。5月には篠栗町の巡回相談により、関係機関との情報の共有を図る。一年間子どもたちの育ちを共有しながら、支援してきたと思う。個々によって、支援の仕方が違うので、より専門家の意見を聞きながら、さらに支援が必要な子どもがよりよく生活できるように尽力していく。</p>
8. 食育の推進	<p>食育の推進を通して、自然や命に目を向け、生きる力につなげていく</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年間の食育計画を各クラス作成 ● 栄養士、調理師、保育者による研修を実施 ● HPに給食のしおりを作成し、保護者へ情報展開 ● 給食の掲示を行い、保護者とともに食への意識を共有する 	<p>食育に関しては、新型コロナウイルスの影響で実施することができなかった。食が生きる命のものになっていて感じることを感じる。園で提供している給食のレシピを玄関に置き、保護者への情報展開を行っている。(継続的に続けていけるシステムを構築)。年中、年長では、3月からプレートから食器(皿)に替え、提供している。食べる姿勢や食への意欲につながっている。</p>
9. 保育者が見える化	<p>情報発信(動画、ホームページ、連絡メール)</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 携帯アプリでの保護者への連絡(行事、緊急) ● クラスだよりを月の子どもの様子・育ち(ドキュメンテーション) ● ホームページで子どもたちの姿を発信 	<p>保護者アンケート(3月実施)において、「クラスだより」によって、子どもの様子や育ちが伝わっていることが分かる。また、HPや動画の機会をもつことで、子どもの様子を保護者が感じ取る機会になっている。コロナ禍の中で、保育者や子どもの様子を伝えることを工夫しながら、進めている。</p>
10. 子育て支援 保護者・地域との連携	<p>園の行事等へ多くの保護者の皆様の参画を計画。保護者、保育者が共に協力し合って園児の健やかな成長を保障する</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援開設(コロナのため中止) ● 子育て支援の研修会を開催 ● 里山サボリ(久山)ひまわり植え ● 地域の田んぼを利用(田植え体験) 	<p>『「他者といかにつながり」そして、協同して社会に貢献していくのか』核家族化が進み、子育ての伝承ができなくなっている。インターネットでは情報が溢れ、保護者は情報を取捨選択し、自己決定していく。保育者という専門家と協働することで、子育ての知識を得られ、また子育ての不安が少し取り払われる。今後子育て支援の重要性はますます。また、地域の子育て支援センターという役割を果たすために、地域に開くことで、保育者や子どもたちの世界が広がっていくことを今後も取り組んでいく。コロナが落ち着けば、保護者の保育者体験を実施したいと考えている。</p>
11. 人権教育	<p>ハラズメントについて、全職員で研修を設け、ハラズメント、児童虐待についての理解を深める</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ハラズメント委員会を立ち上げる ● ハラズメント研修 ● 児童虐待マニュアルの確認、児童虐待の理解 	<p>人権教育。保育や人との関わり中で基盤となるものである。ハラズメント、虐待、LGBT、パワハラ、セクハラ。様々な人たちが「違い」を認め合い、共に協働していく時代に入っている。自分の価値感だけでみることがないように、様々な知見を知り、いかに柔軟に対応していくかを考えていく必要がある。2022年4月からパワハラについては義務化されるので、園でも研修を予定しています。</p>
12. 小学校との連携	<p>小学校との円滑な連携できるように、小学校と連携していく</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校との交流(1月・2月)→ZOOMによる交流会 ● 園の子どもの様子「クラスだより」を小学校と共有 ● 指導要録の共有 ● 小学校の学習参観に参加 ● アプローチカリキュラム作成 	<p>「幼小の架け橋プログラム」文科省においても検討委員会で議論されている。園でも小学校との連携を円滑に進めていくことが子どもたちにとって重要である。小学校の学習と乳幼児期の学びの違いを認め合う。新型コロナウイルスにより、交流会はZOOMで継続し実施した。年長児は「小学校のこと」を知り、小学校への期待が膨らんでいた。令和4年度は、さらに小学校教諭と意見交換や保育について語る場を作っていく。</p>

Q.9 保護者は子どもたちの自然に
立って、一人一人に応じて
育てている

● そう思う
● どちらとも
いえない
● そう思わない
い



そう思う:105
回答数 どちらともいえない:13
そう思わない:1

Q.11 担任は保護者の方や子ども
ちに丁寧に対応している

● そう思う
● どちらとも
いえない



回答数 115
そう思う:115
どちらともいえない:4

Q.10 日課の教育から子どもの差が
伝わってくる

● そう思う
● どちらとも
いえない
● そう思わない
い



そう思う:100
回答数 どちらともいえない:18
そう思わない:1

Q.12 担任とともに子どもの成長を
共有している

● そう思う
● どちらとも
いえない
● そう思わない
い



回答数 104
そう思う:104
どちらともいえない:14
そう思わない:1

Q.13 保護者から子どもの様子や健
康状態の声かけがありますか

● そう思う
● どちらとも
いえない
● そう思わない
い



そう思う:104
回答数 どちらともいえない:14
そう思わない:1

Q.15 地震や火災や外部からの不審
者の侵入に対して安全対策を
行っている

● そう思う
● どちらとも
いえない



回答数 111
そう思う:111
どちらともいえない:8

Q.14 子どもの心身の健康や発達
の悩みなどを家庭に相談でき
ていますか

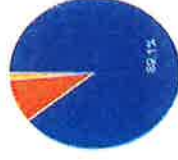
● そう思う
● どちらとも
いえない
● そう思わない
い



そう思う:88
回答数 どちらともいえない:27
そう思わない:4

Q.16 風邪や熱帯が起きたときは丁
度に対処を説明していますか

● そう思う
● どちらとも
いえない
● そう思わない
い



回答数 106
そう思う:106
どちらともいえない:11
そう思わない:2

2021年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

法人名

田名橋学園

園名

和田幼稚園

まとめ

第2章第2節 乳児期の園児の保育
 保育・教育を支えていくためには、乳児教育の大切さを知る必要がある。愛情豊かで受容的・応答的な関わりを通して、愛着関係を形成し、人に対する基本的信頼関係を培っていく。周囲の大人から愛され、受け入れられ、認められていることを実感し、自己肯定感を育んでいく。乳児保育の環境を考えると、トイレの場所や教、保育室の広さ等十分ではない環境の中ではあるが、保育者が園児一人一人の存在を大切に、温かい家庭的な雰囲気のもとに、愛情をより注いでいきたい。

第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育
 「養護を土台として、生きる力を培っていく」を目標に保育してきた。園児の思いより保育者の思い「次の活動へ行ってほしい」が優先されている。自分の思いや欲求を主張し、受け止めてもらう経験を重ねることで、他者を受け入れることができ始める時期。安心感・基本的信頼感を育んでいるからこそ、「だいすきな」保育者を見本とし生活の流れを共有していく、「自分でしたい」自我が育っていくことができる。より一人一人の思いを表情や声から読み取り、応答的、共感的に関わりながら、子どもたちが「自分でやりたい」という思いや願いを尊重しながら、一人一人の発達や生活の自立を温かく見守り援助していく。令和4年度はより発達の理解や一人一人の育ちを見えていく。

第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育
 今年度はサークルタイムや保育環境の見直しを行ってきた。構成あそび、カードゲーム、指先の動きを促すレゴやラキュー、積み木やカプラなど。「子どもたち一人一人を大切に」環境づくりの力を注いできた。遊びながら、五感を通して学ぶ喜び、世界の仕組みを知っていく。そして、体験したことを活かしながら、遊びを広げ、思考を広げていっている。保育者も共に遊び、その環境に何が必要なのか、環境を再構成しながら、保育を進めている。社会性、創造性や想像性を育み、来年度もより園児の心と体の成長が感じられるように環境（物的環境、人的環境）を整えていく。

第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項
 クラスだよりを子どもの姿をベースに作成し、保護者と子どもの育ちを共有している。コロナ禍のなかで、保護者に保育を見てもらう機会が減り、保護者と「子どもをまんなか」において話す機会が減ってしまった。再度、「乳幼児教育の大切さ」を保護者とともに共有し、「子どもにとって」よりよい環境づくりをしていく。保育者が家庭と連携し、日々の子ども一人一人を丁寧にとみることで、そして園児の気持ちを十分に受け止め、安心感、安定感を得て、身近な環境に自ら働き掛け、好きな遊びに熱中し、やりたいことを繰り返し行い、子どもたちの主体性を大切にしていけることが、安全な安心した環境をつくることにつながることを感じている。

第3章 健康及び安全
 園児の健康増進や食育の充実等の取組は子どもたちの生命の保持・情緒の安定につながっていく。特に乳幼児においては家庭と連携し、子どもたちの生命を守っていかねばならない。コロナ禍の中、保育者と保護者の連絡手段はICTを利用した連絡帳になっていく。幼稚園の様子等を伝えながら、次年度はより活用して行っていく。近年ますます家庭支援の重要性を感じている。家庭支援を実施しながら、家庭の養育力とともに健康増進や食育の充実を図っていきたい。また、次年度も看護師・栄養士・調理師・保育者と連携しながら、子どもたちの健康や安全に取り組んでいく。

第4章 子育ての支援
 コロナ禍において、家庭での見守りを余儀なくされ、「子どもたちとどう過ごしていけばよ」と悩む」保護者の姿も見られた。子育ての支援に関しては、保護者の気持ちを受け止めつつ、保護者が自己選択・自己決定できるように援助している。また、支援が必要なご家庭については、家庭環境等の状況を踏まえながら、必要な支援をしていく。コロナ禍の中で、各家庭として一人一人の状況が様々ではない中、まさに自立と生き生き、生き抜く力が大人にも求められている。その中で、園として「何ができるか」が問われている。

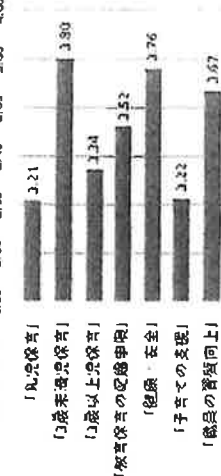
第5章 職員の資質向上
 新型コロナウイルスの影響でオンラインで研修する機会が格段に増加した。NPO国際臨床保育研究所の勝山結夢氏に来園してもらい、実践の中で環境の見直し、保育者のマインドについての研修機会をもっている。専門家による助言をもとに、自分の保育を見直すことができている。次年度においては、研修機会を確保し、研修内容等の見直しを進めていく。遊びの広がりや子どもたちの心についての多彩な研修を準備し、保育者の地味を広げていける機会を作っていく。また、園内研修や日々の振り返りの質を高めることで、さらに園の保育が充実していくと思う。

総合
 「10歳からの保育の大切さ」、「10歳からの育ちの連続性」E C E Cが世界基準になっている。乳児期におけるアタッチメントからの愛着の形成、基本的信頼感の獲得。人と人との関係性のなかで人は育っていく。1・2歳児から「みんな一緒」の感覚ではなく、「一人一人違う」「一人一人大切な存在」という意識を、保育者や保護者も持つことで子どもたちにもそのマインドは浸透していく。乳児保育の充実が今後の社会の未来を作っていく。「三つ子の魂百まで」乳児が感じた感覚がその子の人生を大きく変えていく。今年度、保育環境、組織づくり、保育の質について重点的に取り組んできた。「環境が変われば、子どもたちが変わる」「社会が変われば、子どもたちが変わる」。一人一人が認められる環境の中で、保育者や友達に支えてもらいながら、自立し、みんなの中の一人という意識が育っていく。小学校との接続や地域社会との関わりが今後の課題になる。子どもたちが地域のなかで、生き生きと輝く社会を作っていく必要がある。令和4年度は小学校との交流や田植え・九大の森森林セラピーとの交流等、地域に関わられた幼稚園を進めていく。また、園内研修や外部研修を活用し、保育について探求していく。園の様子を定期的に動画配信するなど保護者と子どもの育ちを共有しながら、園を開いていきながら保育の質を向上させていく。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	14	3.21
「3歳未満児保育」	32	3.80
「3歳以上児保育」	53	3.34
「保育従事者の発達支援」	16	3.52
「健康・安全」	29	3.76
「子育ての支援」	18	3.22
「職員の資質向上」	9	3.67
計	171	3.51

データグラフ



令和3年度学校評価について

令和4年4月18日
学校関係者評価委員
浦田 健吾

令和3年度学校評価について、①グランドデザインの作成について②学校評価の評価観点について③評価項目の自己評価の理由をみての所感④参観しての所感の4点から、述べさせていただきます。何か役に立てればという思いで書いています。取り入れなくてもいいので、参考にしていただけたらと思います。詳細の説明が必要でしたら、次回、お会いしたときに、説明したいと思います。

1 グランドデザインの作成について (資料1)

(1) グランドデザイン作成の目的

- ・グランドデザインにまとめてみると、取り組み観点が整理でき、自己の園の経営・運営を明確にできると考えます。
- ・職員に説明したり、本年度の重点を説明したりする時にも有用です。また、若い職員は、教育目標を意識するということが少ないと感じます。日々の活動や学びが、園の教育目標である「あかるく、たくましく、かんがえる」子どもたちを育成しているということ、5領域での活動や学びが、10の姿につながるなど、自覚させることも役立つと考えます。
- つまり、グランドデザインを提示することにより、「あかるく、たくましく、かんがえる」子どもたちの育成は、知・徳・体のバランスのよい、健全な子どもたちの育成を目指していること、10の姿(資質・能力)は、本園の教育目標と、どうつながっているのかなど、意識させることができると考えます。

(2) グランドデザインの表記の説明

- ・現職のとき、教育目標の具現化とともに、自分が大切していたのは、「笑顔あふれる学校」をつくるということです。そして、「今日も園が楽しかった。(子ども)」「この園に行かせてよかった。(保護者)」「この園でよかった。(職員)」「この園を応援してよかった。(学校関係者・地域)」という声が聞こえる学校を目指していました。「笑顔あふれる学校」というスローガンは、子どもたちの健全な育成、円滑な学校経営・運営等をすべて包含した言葉と考えます。そのため、「笑顔あふれる園」を表記しています。
- ・グランドデザインの枠組みについて説明します。資料1を参考にしてください。構成要素としては、様々な観点がありますが、私は、下記の項目で考えていました。それをもとに和田幼稚園の評価項目をあてはめて、グランドデザイン(例)を考えてみました。

I	授業づくり
II	心づくり
III	体づくり
IV	学校評価
V	組織の活性化
VI	地域・家庭との連携
VII	安全管理 防災・防犯
VIII	学校環境
IX	研修・研究



I-①~⑥	学習内容
II	学校評価
III	組織の活性化
IV	地域・家庭との連携
V	安全管理 防災・防犯
VI	園環境
VII	研修・研

③ 保育環境の見直し

- ・環境は、子どもたちの健全な心の育成に大切です。よりよい環境づくりは、子どものよりよ
い成長につながると 생각합니다。

- ・物的環境だけでなく、言語の環境も大切と考えます。言語の適正化も考え、言語環境を整え
ることも大切だと考えます。

⑤ リスクへ備え・事故対応

- ・安全管理等は、様々な対応がせまられています。個人の対応及び組織としての対応を共通認
識することは、重要と考えます。

⑥ 教育目標・学校評価

- ・学校評価をした後、どのようにいかしていくかが重要と考えます。

⑦ 特別支援教育

- ・コーディネーターにも、企画、提言させるなどし、ミドルリーダーとして育てていくことを楽
しみにしています。

⑧ 食育の推進

- ・給食のレシピを家庭に情報提供することは、いい取り組みだと思います。コロナが終息したら、
レシピをもとに、保護者と一緒につくる機会をつくってほしいですね。

⑨ 保育の見える化

- ・子どもたちの育ちを、いかに伝えるかは、とても大切なことです。どの子にも、「よさ」や「が
んばり」があります。保育者・職員は、その子の「よさ」や「がんばり」に敏感に気付くとと
もに、その子の言動を通して園内の様子や行事を伝えていけるといいと思います。保護者も、
子どもの実際の言動は、安心する要素となり、「この園に通わせて、よかった」という声につな
がるのではないかと思います。

⑩ 子育て支援

- ・地域の子育て支援センターとしての役割は、重要だと思います。この取り組みは、本年度の重
点的な位置づけになると考えます。保育者・職員は、専門性を高める必然性があり、保護者は、
園の重要性を認識する機会になると思います。具体的な取り組みについて、本年度末の報告を
楽しみにしています。

⑪ 人権教育

- ・児童虐待の理解、対応については、園全体での取り組みが必要です。各状況の把握、対応は、
園全体での動きとなるので、組織で、どう動いていくかなど、複数回の研修等で、共通理解し
ていくことが重要なことと考えます。

⑫ 小学校との連携

- ・「遊びが学びにつながる」こと、子どもたちの気付きを大切にして、時間をかけて学びにつなげてい
ること、子どもたちのよりよい育ちのための工夫をしていること」など、幼児教育で大切にし
たり、努力したりしていることを、小学校の教師に十分に理解してもらっていない場合があります。
また、幼稚園での育ちを、さらに、伸ばしていくけるように、幼小の連携の継続的な取り組みは、
とても重要と考えます。

⑬ 職員のメンタルケア・働き方改革

- ・全員が有給最低5日取得する。明確な判断基準があるので、評価しやすいと思います。
- ・メンタルケアへの対応のため、職員アンケートをして、状況を調査することは、とても重要と
考えます。定期的な職員のメンタル等の状況・状態の把握は、必要と考えます。定期的なアンケ
ートについては、時期や回数を明記するのいいと考えます。

第4節 教育環境の充実

2021年度/令和3年度

◆自尊と自律を育む環境



目次 2022年度／令和4年度 和田幼稚園 事業計画

第1節 法人・幼稚園概要

第2節 2022年度／令和4年度 幼稚園運営指針

第3節 組織運営体制

第4節 全体的な計画

第5節 幼稚園行事(事業)の実施計画

研修計画

健康管理事業計画

子育て支援事業計画

保育環境整備事業

第2節 2022年度／令和4年度 幼稚園運営指針

① 和田幼稚園経営の基盤

和田幼稚園(以下「本園」という。)は、教育基本法(平成18年法律第120号)、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成18年法律第77号)及び子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)その他の関係法令を遵守して運営する。

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律及び子ども・子育て支援法の規定に従い、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を教育・保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

○幼稚園教育の基本

(1)本園は、安心・安定した情緒と落ち着いた環境の中で、自ら学ぶとうとする意欲を育て、健やかで豊かな心と体が育つよう教育・保育を行うものとする。(幼児期にふさわしい生活の展開:安定した情緒の下で自己発揮できる)

(2)本園は、幼児の自発的な活動としての遊びが心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として総合的に達成されるものとする。(遊びを通しての総合的な指導)

(3)本園は、教育・保育に関する専門性を有する職員が、家庭との密接な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、養護と教育を一体的に行うものとする。(一人一人の特性に応じた:個々の課題を見つけ、関わり方も変える)

② 田名橋学園の運営方針

(1) 安全・安定・安心な園づくり

子ども達が楽しく安心して園の生活ができるように子どもたちの情緒の安定を図り、日常の安全管理や避難訓練など防犯体制の充実を図り、安全で安心な園づくりを推進する。

(2) 人格形成の基礎づくり

挨拶や礼儀作法など基本的な生活習慣が身につくように援助し、自発的、主体的に行動できるように助長する(人格形成の基礎づくり)を推進する。

(3) 幼児教育の更なる充実(豊かな環境の中で、多様な経験をし、成長を促す)

遊びや活動、生活の中で、人・もの・コトに子どもたちが自ら関わり、その中で発見したり、気付いたり、工夫したり思考錯誤し、友だちと協力したりしながら、子どもたちの園生活が充実していくように関わっていく。

③ 教育理念「あかく、たくましく、かんがえる創造性豊かな子を」

教育方針「あかく、たくましく、かんがえる創造性豊かな人格形成の基盤を養うことを主な方針とする」

○あかく、たくましく、かんがえる創造性豊かな子を目標とし、一人一人の関わりを大切にす

○自然を営む環境の中で、多様な経験をし、成長、発達を促す

○規則正しい生活習慣を身につけ自発的に行動できるように助長する

④ 和田幼稚園が目標とする子ども像

人との関わりを大切にす子(社会性の芽)

自分を信じ、最後までやり抜く子(自信の芽)

気付き、考えて、表現する子(主体性の芽)

自ら課題を見つけ、探求する子(探求の芽)

自然に関わり、命を大切にす子(命の芽)

第3節 組織運営体制

2022年度においても、「園務分掌」に基づき、業務を分掌し、合理的で機能的な幼稚園運営を図る。

① 組織運営・職員の働き方

- ・職場づくり(コミュニケーション研修・心理学研修)
- ・園の人づくり(「あかるく、たくましく、かんがえる」主体的な職員を目標に)
- ・1対1のヒアリング(職員の困り感、園の課題抽出)
- ・委員会の設置(専門リーダーと副主任との連携)(安全管理、ハラスメント、防災、特別支援、業務改善)



② 保育の質の向上

- ・外部研修・オンライン研修の活用
- ・子ども園・保育施設見学(鹿部保育所等)
- ・篠栗町の幼稚園・保育園との連携(公開保育、保育者間の交流会)(幼小接続)(6月・11月実施予定)
- ・子ども理解の促進と要領の理解、日々の保育の振り返りを職員間で行う
- ・園内研修・園外研修の充実(ミドルリーダーの活躍に期待)(誕生会を平日に、土曜日職員研修の充実)
- ・保育環境の見直し ・ICT 化業務の効率化を促進(担任にPC1台)

③ 保護者支援・子育て支援

- ・個人面談の実施(年2回)とクラス見学会(2回)
- ・保育の見える化(動画配信)
- ・クラス便りの充実(子どもの様子や育ちを保護者にドキュメンテーションしていく)各クラスの様子がより保護者の方に伝わるようにする(保育者が保育子どもの姿、子どもの育ちを説明していく)全職員が写真(子どもの様子)を共有できるように。



<p>家庭との連携</p> <p>園児の生活全体を豊かにするために家庭との連携を密に図る。 園児の記録等による状況把握、入園のしおり・HP等による園の情報提供にて情報を共有する。また、教育及び保育の全体計画やおたより、保育ドキュメンテーション、動画による保育の説明丁寧に行う。</p>	<p>小学校への接続・連携(年長児)</p> <p>アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの推進を図る。また、小学校教育への円滑な接続に向けて園児と児童の交流、職員と教師の意見交換の機会を図る。</p>	<p>自己評価・第三者評価</p> <p>開かれた教育課程・開かれた幼稚園を指すべく、子ども理解に基づき評価を通して、保育の質の向上を高めていく。</p>
---	---	--

特に配慮すべき事項

<p>健康支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康及び発育発達状態の定期的、継続的な把握 ●年2回の嘱託医による健康診断(内科) ●年1回の嘱託医による歯科検診 ●登園時及び保育中の状態観察、また異常が認められたときの適切な対応 ●年間保健指導計画 ●月一回園便りにて保健衛生について保護者に配布 ●年1回職員健康診断及び毎月の検便(保育教諭・栄養士・調理員) 	<p>環境、衛生・安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ●危機管理マニュアルの整備 ●園内研修による危機管理マニュアルの啓発 ●施設内外の設備、用具等の清掃及び消毒 ●施設内外の設備、用具等の安全管理及び自主点検 ●子ども及び職員の清潔保持 ●感染予防マニュアルの作成と実施及び保護者との情報共有(連絡アプリにて感染症の状況を保護者が確認できる) ●インフルエンザ・新型コロナウイルスへの対応 ●定期的に避難訓練を実施(火災、地震、不審者対応)の実施 ●消火訓練の実施 ●学校安全年間計画 ●AED研修、エビペン研修実施 ●警察署の指導による安全教室の実施 *年1回外部業者による消防設備点検
---	---

<p>食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食育計画の作成(栄養士、調理師、保育教諭) ●栄養バランスを考えた自園給食の提供 ●全園児へ炊きたて米飯の提供(玄米提供) ●行事食の提供 ●菜園づくりの実施 ●クッキングの実施 ●弁当の日(保育園児) ●保護者との連携・支援 	<p>子育ての支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入園のしおり・パンフレットの配布 ●実習生及び中学生保育体験の受入れ ●危機管理体制の揭示 ●その他緊急を要する情報の通知 ●保護者との連携協力 ●地域子育て支援的活動(育児相談等) ●子育て支援研修・ワーキングジョブ
---	--

令和4年度 重点項目

<p>本年度の重点目標</p>	<p>「あかるく たくましく かんがえる」豊かな環境の中で一人一人の幼児を大切にしたい。質の高い教育、保護者とともに子どもたちの成長を分かち合える開かれた幼稚園を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保育の質向上(教育・保育の探求) ●組織運営・人材育成 ●保育環境の見直し
<p>経営の重点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●組織運営「つながり」 <p>職員が働きがい、やりがい、働きやすさのある職場づくり(保育者同士のつながり・保育者と保護者のつながり)</p> <p>保護者が子ども理解、幼稚園への理解を深めていく 自己評価・第三者評価 職員間の振り返り(自己評価)</p>
<p>教育の重点</p>	<p>「子どもたちの心情・意欲を高める・子どもの心を動かす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども理解、環境構成、援助の理解を深める ●多様な体験 ●遊びの広がり deepen ●人権教育 ●共に育つ(地域との関わり、保護者と育つ) ●環境教育:自然と関わる(自然を感じる)
<p>子どもの教育及び保育目標(学年の重点事項)</p>	
<p>1歳児</p>	<p>安心できる保育者との関係の下で、行動範囲が広がり探索活動が盛んになる</p>
<p>2歳児</p>	<p>受容的・応答的な環境の中で、自分でしようとする気持ち芽生える</p>
<p>3歳児</p>	<p>身近な仲間や自然等の環境と積極的に関わり、意欲をもって活動する</p>

<p>教育及び保育の基本 と目標</p>	<p>基本(1)活動体験を十分に積み重ねる (2)養護による自己発揮を考慮し、乳幼児期にふさわしい生活の展開(3)遊びを通じた指導を中心として5領域のねらいを達成 (4)園児一人一人の発達の課題に即した指導→保育教諭の計画的な環境構成 目標:認定こども園法第9条の目標達成に努める</p>
<p>特色ある教育と保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●園児一人一人の関わりを大切にし、生活力と自信と生き抜く力を育む ●多様な体験を育む補保育(筆あそび・運動あそび・英語あそび・お茶あそび・そばあそび・創作ダンス)
<p>食育計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う ●各クラスが年間食育計画を立て栄養士、調理士と相談しながら食育を進める
<p>学校安全計画</p>	<p>「生きる力」を育む安全教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校安全計画をもとに、各担当が年間の避難訓練計画を立てる
<p>保健衛生計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●保健衛生計画をもとに、各担当が年間の保育計画に入れていく
<p>研修計画</p>	<p>語り合う園内研修 子ども主体へ向けた研修 ●教育・保育要領対応の園外・園内研修(キャリアアップ研修を含む) ●外部講師による園内研修 ●園外研修への計画的な参加</p>
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●(全体の反省による計画・教育課程への反映) ●保育教諭等の評価(自己評価)自己チェックリストの実施 ●アンケート調査(保護者)
<p>第三者評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学校関係者評価(学校関係者、保護者) ●専門知識をもった関係者の評価



● 研修計画

2022 年度 園内研修・園外研修計画

研修・事業名	研修目的	研修内容	実施主体	開催時期	研修計画・内容の見直し
全体研修		経営要綱・全体的な計画 他		3月26日	中部消防署応急手当
学校関係者評価	第三者評価	学校経営、人材育成、学校評価		年間	
職員アンケート	自己点検・自己評価	自己点検・自己評価			
主任・副主任会議	園の課題に応じた研修		主任・副主任		学期毎
調理員研修① 職員会議	食育会議・	ヒヤリハット事例(食事・園内・戸外) 事故発生時の対応マニュアル 他	安全管理委員会 各担任・栄養士	4月4日	
	コミュニケーション研修①	コミュニケーション研修 セルフ・ケアラーニング中里先生	外部講師	4月5日	
		週案・月案 保育の広がり	副主任	4月6日	
園内研修①	人間関係・コミュニケーション	心理学を学ぼう	アドラー心理学講師	4月16日	
	安全対策会議	学校安全計画 防災計画 ハラスメント(人権擁護チェックリスト)	安全管理委員会他 防災委員会	4月16日	
園内研修②	園の課題に応じた研修	園の課題に応じた研修	特別支援	5月28日	
園内研修	幼小接続研究会	幼小接続	小学校教諭 保育教諭	6月10日	午後 13:00～
園内研修③	園の課題に応じた研修	保育環境(玩具)研修 横尾泉先生おもちや環境コーディネーター	外部講師	6月25日	
	園の課題に応じた研修	安全管理 ●ヒヤリハット事例 ●水遊びの際の注意事項	安全管理・アレルギー委員 会 各担任	6月25日	
園内研修④	園の課題に応じた研修	1学期の課題や改善点 業務改善会議	業務改善委員会	7月23日	
調理員研修②	食育会議	1学期の振り返り 食育計画(後期)	調理士、栄養士 各担任	7月23日	
園内研修⑤	コミュニケーション研修②	コミュニケーション研修 セルフ・ケアラーニング中里先生	各担任	9月10日	
		運動会に向けて	副主任	9月10日	
次年度継続調査				10月中旬	
園内研修⑥		運動会振り返り	副主任 各担任	10月15日	
園内研修	幼小接続研究会 ★5歳児公開保育	幼小接続	小学校教諭 保育教諭	11月17日 公開保育	午前 10:00～12:00
園内研修⑦		発表会に向けて	副主任	11月26日	
園内研修⑧	園の課題に応じた研修	2学期の課題や改善点 園の課題に応じた研修	副主任 各担任	12月24日	

●保育環境整備事業

「自尊と自律を育む環境」 「気づき、考えて、行動する」
「一人一人の育ちを見つめ、自ら育とうとする子どもたちを支える環境」
「やってみてみたい」「してみたい」と子どもたちが感じる環境



●園舎老朽化に伴う、園舎建て替え事業

幼稚園駐車場の舗装部分の土地購入予定(462㎡)

1.2.3歳児棟



1.2.3歳児棟
8年→4年